

Global Sports Medicine Forum 2022

Canon Medical Systems Corporation is Manchester United's Official Medical Systems Partner

第14回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
第48回日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会

ランチョンセミナー14【LS14】

トップアスリートの診断最前線

日時：2022年6月17日(金) 12:00 - 13:00

会場：第6会場(札幌コンベンションセンター 2階 小ホール)

座長

熊井 司 先生

早稲田大学スポーツ科学学術院 スポーツ科学部

講演 1

日本語字幕付

講演 2

足関節捻挫の診断の向上： 超音波検査の臨床的探索より

Improving diagnosis of Ankle sprains: From Clinical Exploration to
Ultrasound examination.

イニゴ イリアテ ポッセ 先生
Dr. Iñigo Iriarte Posse

ARSメディカルクリニック
ARS Medical, Bilbao

スポーツ傷害に対する 超音波ガイド下インターベンション

Ultrasound guided intervention for sports injuries

笹原 潤 先生
Dr. Jun Sasahara

帝京大学 スポーツ医科学センター
Teikyo University Institute of Sports
Science & Medicine, Tokyo, Japan

※日本整形外科学会教育研修単位として認定されました。

認定可能単位

必須分野(N): [2] 外傷性疾患(スポーツ障害を含む)
その他単位: (S) スポーツ単位

共催



Japanese Orthopaedic Society of Knee,
Arthroscopy, and Sports Medicine



JOSKAS-JOSSM 2022
キヤノンメディカルシステムズ株式会社

足関節捻挫の診断の向上： 超音波検査の臨床的探索より

Improving diagnosis of Ankle sprains: From Clinical Exploration to Ultrasound examination.

イニゴ イリアテ ポッセ 先生 Dr. Iñigo Iriarte Posse

ARSメディカルクリニック

急性足関節捻挫は、スポーツ選手の下肢損傷で最も頻度が高く、全てのスポーツ外傷の16%~40%を占める。うち40%が、慢性足関節不安定症などの持続的な症状を経験する。

通常、損傷は外側靭帯(主に前距腓靭帯(ATFL)および踵腓(CFL)構造)に好発するが、前脛腓靭帯(ATiFL)、背側踵立方靭帯(DCL)、二分靭帯(Bf)、距舟靭帯(TNL)などの靭帯にも影響が及ぶ。

これら靭帯の評価において、臨床検査に加え、高周波超音波は有用な手段であり、評価の際の感度・特異度の向上および医師の診断決定向上に寄与する。

本講演では、関連する足関節の解剖生理詳細について、足関節捻挫の検査における走査のポイントと臨床検査および超音波検査を組み合わせた検査の実施方法を紹介する。

起こりやすい損傷のメカニズムである内転・外転・底屈および関連する構造(内転における外側靭帯(ATFL、CFL、ATiFL、DCL、BFL)、外転における三角靭帯、底屈におけるTNL)について説明する。

また超音波は、不顕性骨折、関節滲出液貯留、腓骨腱損傷などの重要な病理の排除にも有用である。

講演 2

スポーツ傷害に対する 超音波ガイド下インターベンション

Ultrasound guided intervention for sports injuries

笹原 潤 先生 Dr. Jun Sasahara

帝京大学 スポーツ医科学センター

スポーツ傷害に対する治療方針は、保存治療と手術治療に大別される。関節鏡など手術治療に興味を示す整形外科医は多いものの、保存治療に興味を持つ整形外科医は少なかった。その理由として、整形外科医が行える保存治療の選択肢が少なかったことがあげられる。痛み止めを処方し、ブラインドで(効かない)注射を行い、リハビリテーションの指示を出すだけでは、興味が持てないのも当然である。しかし、保存治療の選択

肢に超音波ガイド下インターベンションが加わったことにより、近年注目を集めている。超音波ガイド下で行うインターベンションとして、注射や体外衝撃波治療、手術のほか、最近ではリハビリテーションも行われるようになってきている。
本講演では、スポーツ傷害に対する超音波ガイド下インターベンションについて、実際の症例を提示して解説する。